

人文科学総合 (Human Science)		4年・後期・2学修単位 (α) ・必修 5学科共通・担当 木村倫幸・勢田勝郭
〔準学士課程 (本科1-5年) 学習教育目標 (1)〕	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標 A-1 (70%), C-1 (30%)〕	〔JABEE 基準〕 (a), (f)
〔講義の目的〕 現代社会を多面的に考察していく社会科学的な視点を養い、これを的確に表現・伝達できる論理的な能力を育成する。		
〔講義の概要〕 (木村担当分) □人間存在・文化とは何かを考察し、現代社会の諸側面の解明とそれらがもたらしている具体的諸問題について考察する。□またその中での自分のキャリア・デザインを探る。 (勢田担当分) 大衆社会の芸術を代表する一つとして映画を取り上げ、その歴史と存在意義を考察し、日本映画史上の多くの名作の中から、有名な文学作品を原作とするものを鑑賞する。		
〔履修上の留意点〕 対象となる問題が多いので、適宜レポート、キーワード等を課す。また問題が現代性を持っているので、新聞等のメディアにも注意を払うこと。なおクラスによって講義の前半と後半の順序が入れ替わるので注意すること。		
〔到達目標〕 ①人間存在を理解する基本的視点を確認する。 ②現代社会の諸側面にかかわる問題を認識する。 ③自分のキャリア・デザインの手がかりを探る。 □映画の発明とそれが近代大衆社会の代表的な文化として発達した経緯を知る。 □黒沢明、山田洋次など、日本の著名な映画監督とその代表作について知識を得る。 □鑑賞する映画の原作となった文学作品を読解・鑑賞し、国語的な知識を得る。		
〔評価方法〕 担当者2名の合計で学年成績とする。 (木村) レポート (60%)、キーワード等その他の授業中の課題 (40%)。 (勢田) 定期試験の得点 (60%)、レポート等 (24%)、授業に対する取組み・意欲 (16%)。		
〔教材・参考書〕 プリント教材多数。参考図書については、講義の中で随時紹介する。		
〔関連科目〕 3年生までの国語、歴史、政治経済等の知識と関連づけて進めていきたい。		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	人間存在・文化とは	人間と文化についての様々な意味を概説する。	
第2週	近代社会の特質	近代社会成立の歴史的背景を概説する。	
第3週	産業化社会	産業社会・脱産業社会について理解する。	
第4週	情報化社会	情報化社会と人間との関係について考察する。	
第5週	大衆化社会	大衆社会における人間を考察する。	
第6週	現代社会と青年	現代社会における青年の位置について考察する。	
第7週	キャリア・デザイン入門	自分のキャリア・デザインの手がかりを探る。	
		(↑木村担当分・↓勢田担当分で前後入れ替え)	
第8週	映画の発明と発達□	映画の発明と発達・普及の経緯を知る。	
第9週	映画の発明と発達□	日本の社会に映画が普及して以後の経緯を知る。	
第10週	芥川龍之介「藪の中」	黒沢明「羅生門」の原作となった小説「藪の中」を読解・鑑賞すると共に、作者・芥川龍之介について知る。	
第11週	黒沢明「羅生門」	黒沢明の映画「羅生門」を鑑賞する。	
第12週	志賀直哉「赤西蛸太」	伊丹万作の同名映画の原作となった小説「赤西蛸太」を読解・鑑賞すると共に、作者・志賀直哉について知る。	
第13週	伊丹万作「赤西蛸太」	伊丹万作の映画「赤西蛸太」を鑑賞する。	
第14週	藤沢周平「たそがれ清兵衛」	山田洋次の同名映画の原作となった小説「たそがれ清兵衛」を読解・鑑賞すると共に、作者・藤沢周平について知る。	
第15週	山田洋次「たそがれ清兵衛」	山田洋次の映画「たそがれ清兵衛」を鑑賞する。	
試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)